

プロジェクトの概要

事件、事故、家庭内暴力、学校でのいじめ等、子どもが被害にあったとき、子どもから出来事についてどのように話を聞くかは、安全確保、調査、再発防止の鍵となります。

けれども現実には、子どもから適切に話を聞くことは難しく、そのために事件が再発したり解決がとどこおることも少なくありません。

聞き取りが困難である原因のひとつは、子どもの発達レベルに応じた、誘導のない面接法が確立していないことです。「司法面接」と呼ばれる面接法は、司法場面でも活かせる、正確な情報を得ようとする面接法であり、事実をできるだけバイアスのかからないかたちで聞き出すことを目的としています。

私たちは 10 年ほど前より子どもへの司法面接の導入を試み、2007 年度からは北海道児童相談所、札幌市児童相談所の心理司、福祉司の先生方に司法面接研修を行ってきました。2008 年度より、独立行政法人「科学技術振興機構 (JST)」の社会技術研究開発センター (RISTEX) の支援を受け、本プロジェクトを開始しました。



このリーフレットは、プロジェクトの概要をご説明し、ご協力を得るとともに、こちらからのサービスについてご案内するものです。

募集中

お子様 調査協力者

面接法の研究や研修にはお子様の協力が欠かせません。「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトでは、幼児から高校生まで、広くお子様の協力者を募っています。

- ◆調査への協力者 (アンケートや面接調査への参加)
- ◆研修での「面接されるお子様」役

北大・文学研究科にての調査や研修にご参加いただけます。保護者の方の同伴も可能です。お子様に、効果的な報告ができるようになっていただけるよう、教育的配慮をもって調査、研修を行います。

受付中

司法面接に関するご相談

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトでは、司法面接の研修や実施に関わることをご相談を受け付けています。

募集中

大学院生募集

北海道大学大学院文学研究科・仲研究室では子どもの記憶、コミュニケーション、認知発達、司法面接等に関する研究を目指す大学院生 (修士、博士) の受験をお待ちしています。大学院受験については北大文学研究科の HP をご覧ください。

<http://www.hokudai.ac.jp/letters/>

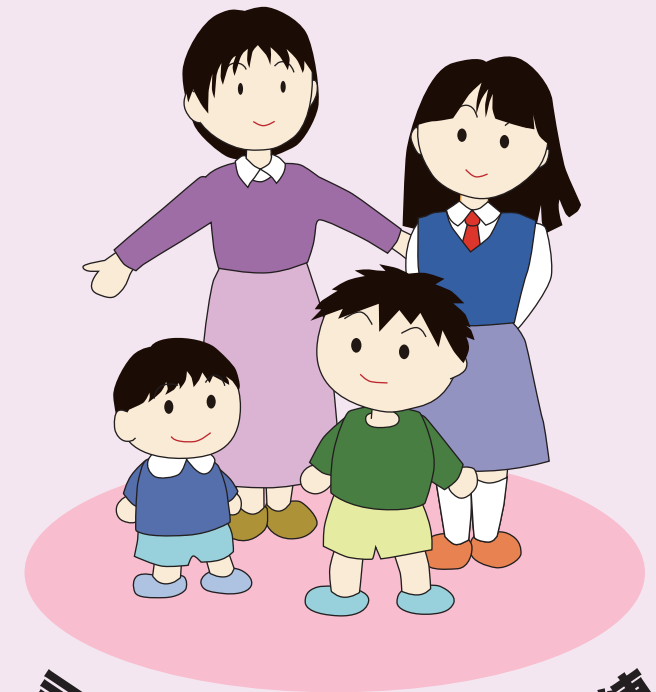
「司法面接法の開発と訓練」プロジェクト事務局
(司法面接支援室)

060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
北海道大学 大学院 文学研究科 内
電話 / FAX : 011-706-2306
takeda@let.hokudai.ac.jp

プロジェクト代表

北海道大学大学院文学研究科 心理システム科学講座
教授 仲真紀子
mnaka@psych.let.hokudai.ac.jp

犯罪から子どもを守る



司法面接法の開発と訓練

研究開発領域「犯罪からの子どもの安全」

「司法面接法の開発と訓練」プロジェクトの内容

研究部門

基礎研究：司法面接の開発には記憶とコミュニケーションに関する発達研究が重要です。ここでは子どもの報告の特性、面接に用いる道具（人形、描画等）の検討、質問や聴取法の検討・研究などを行ないます。

情報収集：面接法に関する国内、諸外国での取り組みや訓練、評価法に関する調査や情報収集を行います。

開発研究：教材の開発、訓練プログラムの効果測定を行います。上記を踏まえ、エビデンスにもとづく面接法と訓練プログラムのパッケージ(DVDと冊子)を作成し、配布します(最終的な成果物は2012年を予定しています)。

研修・応用部門

研修：北海道児童相談所、札幌市児童相談所の専門家を対象に、年3回、それぞれ2日間の研修を行います。

現実事例への適用：現実の事例に司法面接を適用します。委託等によりスーパーバイズや評価等も行います。

司法面接とは：原則として1回、出来事に関する事実の聴取を行います。信頼できる関係(ラポール)を築き、お子様の自発的な報告、オープン質問(お話しして、それから等)、WH質問(何、誰、どこ等)を用いて面接します。録画により正確な記録を行い、また、お子様が何度も面接を受けなくてもよいようにします。

研究グループの紹介

プロジェクト代表：仲真紀子



所属：北海道大学大学院文学研究科心理システム科学講座 教授

専門：発達心理学, 認知心理学。

専門は子どもの面接法, 記憶, コミュニケーションの発達

主著・訳書：子どもの司法面接(英国内務省・保健省:誠信書房)(田中との共訳), 子どもの面接法(アルドリッジ・ウッド:北大路書房)(編訳), 目撃証言の心理学(北大路書房)(巖島・原との共著), 子どもの発達心理学(新曜社)(高橋・藤崎・野田との共著)ほかプログラムの計画, 実施, 統括を行います。

北海道大学グループ

北海道大学グループは、北海道児童相談所、札幌市児童相談所、札幌市精神保健福祉センターの協力を得て「司法面接支援室」を中心に活動を行います。

司法面接支援室

北海道大学文学研究科内プロジェクト室として、2008年12月に開室いたしました。専従の研究支援員2名、短期雇用職員、大学院生で活動しています。

室長：仲真紀子 主任：武田知明

支援室の業務

研究の実施

情報収集

研修

各種サービス

研修の連絡, 受付,

機材手配, その他

科学技術振興機構・社会技術研究開発センター
「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」
http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m_naka.html
<http://www.jst.go.jp/pr/info/info555/shiryo3-2.html>

北海道児童相談所・札幌市児童相談所



福岡教育大学グループ

研究開発に携わる福岡教育大学グループは杉村智子教授を中心に「子どもの人物同定」の研究, キットの開発を行います。

アドバイザー：R. ブル教授

ブル教授(レスター大学犯罪心理学部)は英国のガイドライン作成に貢献されました。プロジェクトのアドバイザーとして助言, 情報提供を行います。

司法面接研修：12時間コースと24時間コースがあります。内容は、①面接法, 子どもの認知発達に関する講義, ②面接の計画, ③研修者同士のロールプレイ, ④お子様(協力者)に対する面接練習, ⑤会話分析, ⑥ディスカッションなどを含みます。

